

インボイス中止を

署名提出での訴えから

消費税のインボイス（適格請求書）制度実施の中止を求める署名提出（4日、衆院第1議員会館。「インボイス制度を考えるフリーランスの会」＝STOPインボイス＝主催）での、稲作・繁殖農家で農民運動全国連合会の長谷川敏郎会長の訴えを紹介します。

中国地方・島根県の山 繁殖和牛の経営は、母牛の中で、繁殖和牛2頭と牛に種付けをし、子牛を米づくり1・4畝の小さな農家です。



長谷川敏郎
（稲作・繁殖農家）

て、肥育農家に子牛を販売する仕事です。受精し出産するまで290日、販売まで1年半かか

農民連会長 長谷川敏郎さん

って、やっとお金になります。ところが、この6月、子牛価格は8年ぶりに大暴落しています。この2年間、エサ代は上がり続け採算ラインを割り込んでいます。ちなみに牛の消費税は10%です。そして、農協特例の対象外です。

10月からインボイスが始まる。子牛市場でゼリの名簿にインボイスの発行事業者かどうか事前に表示されます。課税が免税で差別され、インボイスのないだけで買ったたかれます。赤字なのにさらに買ったたか、これは肥育農家が懸念するのは

ありません。インボイスしり取られる。これは牛飼いをやめるしかありません。まさに農家いじめです。おコメはともかく、子牛を消費者に直接販売することはできません。もともと、消費税そのものが農家いじめの税金です。インボイスは小さな農家つがしです。

も、タメなんです。小さな牛飼いはコメづくりとの複合経営がほとんどです。中国地方のコメの生産費は60円、1俵で2万円160円。今年の農協の買い取り価格はたった1万2200円です。赤字です。コメでも牛でも所得税が払えないのに、

農家の9割は売り上げ1000万円以下。インボイスでみんなが農業をやめたら、38%しかない日本の食料自給率は一気に下がります。インボイスは国産食料がなくなる道です。安全・安心の国産牛肉を提供し、私たちが牛飼いと農業を続けるためにも、絶対にインボイスはやめてほしい。これが私の思いです。

国産食料なくなる道